



いまがわ しんご

今川 新悟

文部科学省
高等教育局専門教育課
専門官

担当業務

- ・大学・高専機能強化支援事業（成長分野をけん引する大学・高専の機能強化に向けた基金）
- ・デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業
- ・数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム
- ・数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度

大学・高専機能強化支援事業（成長分野をけん引する大学・高専の機能強化に向けた基金）

令和4年度第2次補正予算額 3,002億円

事業創設の背景

- デジタル化の加速度的な進展や脱炭素の世界的な潮流は、労働需要の在り方にも根源的な変化をもたらすと予想。
- デジタル・グリーン等の成長分野を担うのは理系人材であるが、日本は理系を専攻する学生割合が諸外国に比べて低い。

※ 理系学部 of 学位取得者割合

【国際比較】 日本 35%、仏 31%、米 39%、独 40%、韓 44%、英 46%（出典：文部科学省「諸外国の教育統計」令和6（2024）年版）

【国内比較】 国立大学 60%、公立大学 47%、私立大学 29%（出典：文部科学省「令和6年度学校基本調査」）

（注）「理・工・農・医・歯・薬・保健」及びこれらの学際的なものについて「その他」区分のうち推計

- デジタル・グリーン等の成長分野をけん引する高度専門人材の育成に向けて、意欲ある大学・高専が成長分野への学部転換等の改革を行うためには、大学・高専が予見可能性をもって取り組めるよう、基金を創設し、安定的で機動的かつ継続的な支援を行う。

支援の内容

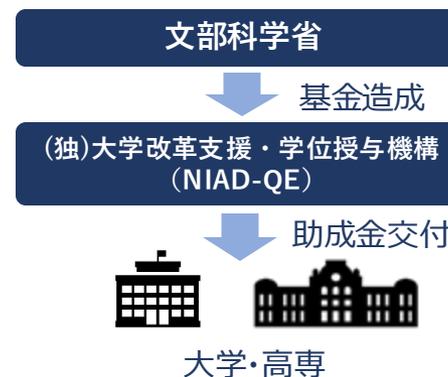
① 学部再編等による特定成長分野（デジタル・グリーン等）への転換等（支援1）

- 支援対象：私立・公立の大学の学部・学科（理工農の学位分野が対象）
- 支援内容：学部再編等に必要な経費（検討・準備段階から完成年度まで）
定率補助・20億円程度まで、原則8年以内（最長10年）支援
- 受付期間：令和14年度まで

② 高度情報専門人材の確保に向けた機能強化（支援2）

- 支援対象：国公立の大学・高専（情報系分野が対象。大学院段階の取組を必須）
- 支援内容：大学の学部・研究科の定員増等に伴う体制強化、
高専の学科・コースの新設・拡充に必要な経費
定額補助・10億円程度まで、最長10年支援
※ハイレベル枠（規模や質の観点から極めて効果が見込まれる）は20億円程度まで支援
- 受付期間：原則令和7年度まで

【事業スキーム】



高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール）

令和7年度予算額

2億円
(新規)



令和6年度補正予算額

74億円

現状・課題

大学教育段階で、デジタル・理数分野への学部転換の取組が進む中、その政策効果を最大限発揮するためにも、高校段階におけるデジタル等成長分野を支える人材育成の抜本的強化が必要

事業内容

情報、数学等の教育を重視するカリキュラムを実施するとともに、専門的な外部人材の活用や大学等との連携などを通じてICTを活用した探究的・文理横断的・実践的な学びを強化する学校などに対して、そのために必要な環境整備の経費を支援する

支援対象等

公立・私立の高等学校等
(1,200校程度)

箇所数・補助上限額 ※定額補助

- 継続校 : 1,000校 × 500万円 (重点類型の場合700万円)
 - 新規採択校 : 200校 × 1,000万円 (重点類型の場合1,200万円)
 - 都道府県による域内横断的な取組 : 47都道府県 × 1,000万円
- ※必須要件に加えて、各類型ごとの取組を重点的に実施する学校を重点類型として補助上限額を加算(80校(半導体重点枠を含む))

採択校に求める具体の取組例 (基本類型・重点類型共通)

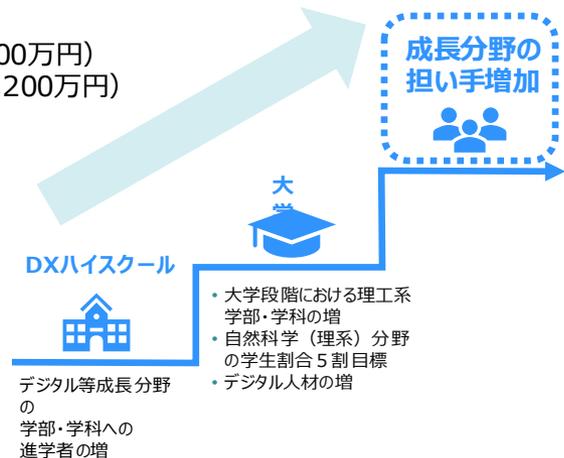
- 情報Ⅱや数学Ⅱ・B、数学Ⅲ・C等の履修推進 (遠隔授業の活用を含む)
- 情報・数学等を重視した学科への転換、コースの設置
- デジタルを活用した文理横断的・探究的な学びの実施
- デジタルものづくりなど、生徒の興味関心を高めるデジタル課外活動の促進
- 高大接続の強化や多面的な高校入試の実施
- 地方の小規模校において従来開設されていない理数系科目(数学Ⅲ等)の遠隔授業による実施
- 専門高校において、デジタルを活用したスマート農業やインフラDX、医療・介護DX等に対応した高度な専門教科指導の実施、高大接続の強化

採択校に求める具体の取組例 (重点類型(グローバル型、特色化・魅力化型、プロフェッショナル型(半導体重点枠を含む)))

- 海外の連携校等への留学、外国人生徒の受入、外国語等による授業の実施、国内外の大学等と連携した取組の実施等
- 文理横断的な学びに重点的に取り組む新しい普通科への学科転換
- 産業界等と連携した最先端の職業人材育成の取組の実施

支援対象例

ICT機器整備(ハイスペックPC、3Dプリンタ、動画・画像生成ソフト等)、遠隔授業用を含む通信機器整備、理数教育設備整備、専門高校の高度な実習設備整備、専門人材派遣等業務委託費 等



事業スキーム



(担当：初等中等教育局参事官(高等学校担当) 付)



高大連携 イベント



福岡県「DXハイスクールと大学」連携イベント

- 主催：九州大学
- 参加大学：北九州市立大学、福岡女子大学、九州工業大学、福岡工業大学、九州情報大学、久留米工業大学、サイバー大学、日本経済大学、西南学院大学、九州産業大学
- 参加高校：福岡県内の高校 13校

プログラム①

参加高校によるプレゼン

参加高校がDXハイスクールの取組等を紹介

》》》 主な発表内容

- 学校の現状（自己紹介）
- DXハイスクールの実施状況
- DXハイスクールの取組課題
- 大学等に求める支援内容



(Copilotにより生成)

プログラム②

参加大学によるプレゼン

参加大学が高校へ提供可能な支援等を紹介

》》》 主な発表内容

- 学校の現状（自己紹介）
- 情報教育に関する最近の取組状況
- 高校へ提供可能な支援内容



プログラム③

グループディスカッション

1グループ6、7人程度で、大学・高校の参加者が複数のグループに分かれて、計3回実施

→ 高校、大学それぞれで抱えている課題や取組を共有するとともに、自由にテーマを設定して意見交換を実施

(討論されたテーマ例)

- 具体的な高校と大学の連携方法
- AIの教育現場での活用状況・課題



連携イベントによる効果

高校・大学ともに連携に向けた一歩を踏み出す機会になり、高大連携が推進

- 双方の取組状況が把握でき、連携・支援できる条件を模索することができる
- 外部専門人材から助言や課題解決に向けた手法を得ることで、発展的な取組を計画・実施できる機会が得られる

